

# 出会う人や風景に魅せられて

## 仲間とサイクリング

### 自転車愛好家が集う場所

『銀輪亭(本町)』は、世界一周中の海外のサイクリストも立ち寄る自転車店。店主の出口隆二さんは高校生のとき本格的にサイクリングを始め、国内各地を走破したあと、23歳で北米大陸8千キロを横断した実績を持つ自転車冒険家。出口さんのもとには、超ベテランサイクリストから初心者まで、自転車愛好家が数多く集います。

みんなで一緒にサイクリングに行くようになり、平成26年(2014年)には『銀輪亭倶楽部』を立ち上げてホームページを開設し、定期的な活動を始めました。定年退職後の楽しみにと始めた活動でしたが、幅広く参加者を募集するうちに、今では60歳代を中心に25歳から84歳までの30人が所属。ときには小学生の子ども連れで参加する方もいるそうです。



出口隆二さん(左)と丹羽誠さん。

### メンバー発案の多彩な企画

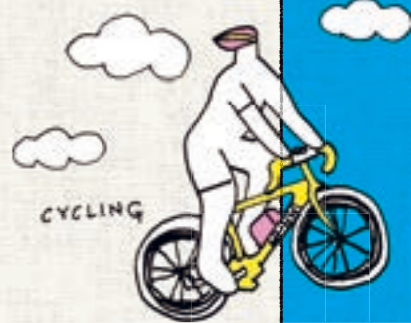
活動は「淡路島一周」「四国山脈横断1泊2日の旅」「酒蔵巡り」「卵かけご飯の会」とバラエティに富んだ内容。「年齢も職業も経験も様々な参加者同士の交流も活動の醍醐味」と出口さん。平成28年からは知識や経験をまちづくりに活かしたいと、子どもも自転車安全教室や健康寿命を延ばす講演会、私道の安全点検と改善策の提案活動等、豊中市との協働事業にも取り組んでいます。

「豊中は服部緑地や北摂の山々などの自然をはじめ、能勢街道などの史跡・旧跡、飛行機の離発着を間近に眺めながらのサイクリングなどいろんなコースを楽しめます」と魅力を話す出口さん。銀輪亭倶楽部事務局の丹羽誠さんは「散歩するように自転車を楽しむ『散歩』という言葉も生まれています。朝のサイクリングもいいですね」と話します。



### クラブ情報

メンバー数 / 30名  
活動日 / 基本は月1回 ※自由参加  
随時、メンバー募集中。  
サイクルショップ銀輪亭(本町5-8-50)  
ホームページ:「銀輪亭倶楽部」  
<http://www.ginrintei.sakura.ne.jp/ginrinteiclub/>  
ブログ:「サイクリング旅日記」  
<http://www.ginrintei.sakura.ne.jp/cyclodiary/>



参加理由は、仲間と楽しみたい、サイクリングが好き、健康のためなどさまざま。



# 「元気スポーツキッズたち」

豊中市では、少年スポーツ活動が早くから盛んで、活動を支える地域の指導者が多数存在します。その活動の一部を紹介します。

## 多様なスポーツ体験で生涯スポーツの基礎づくり

### 豊中市スポーツ少年団

#### スポーツ少年団とは

昭和37年(1962年)、日本体育協会が創設した全国組織。特定のスポーツ種目のみの活動を行うのではなく、野外活動や文化・学習活動など、幅広い分野での交流体験活動を行う。

豊中市スポーツ少年団は、大阪府内でも早く昭和38年に結成。現在はバレーボール、陸上、野球、拳法、空手などの特定種目を練習する7つの団体が加盟し、全国大会に出場するなど活躍している。全体の行事では駅伝競走、フラッグフットボール、水泳などふだん練習する種目以外のスポーツで交流している。



豊中市立豊島体育館にてフラッグフットボール練習会

豊中市スポーツ少年団本部長の井上信雄さんが副本部長の舘崎弘士さんとともにかわる、豊中スキップスポーツ少年団は、全国小学生クロスカントリーリーグ大会に出場するなど陸上競技に取り組んでいます。「ふだんは陸上競技を練習し、年間行事では異なる種目の他の団の子どもたちと多種目のスポーツや合宿でふれあいます。そうした多様な経験が子どもたちの成長に役立ちます」と話します。同じく副本部長の堤研二さんは、義和拳法を子どもたちに指導するかわら

スポーツ少年団の歴史や豊中市における活動を講演会などで紹介しています。「スポーツ少年団は、種目ではなく年齢で区切った組織として社会教育のなかに位置づけられているのが特徴。スポーツを通じた子ども達の居場所づくりという役割も果たしています。また、複数の種目を経験することは生涯スポーツの観点からも有意義です。そのために、特定種目とは別に各種のスポーツ交流会や体力テストなどの行事を行っています」と話す堤さん。スポーツ少年団は、子どもが地域によって守り育てられ、また指導者や保護者による信頼関係の形成により地域社会の人間関係を豊かにするという意義があるとも話します。



ふれあい緑地フェスティバルで50m走